

報 告

四月例会

去る4月25日、教庁4階講堂に於いて「四月例会」を開催。出席は43教区、112直属。

各地の動き

【直属学生層育成者講習会】

・名東	4月16日	大教会	100名
・西	4月16日	富江副委員長出向 大教会	110名
・豊岡	4月18日	詰所	100名
・小牧	4月23日	松村委員長出向 大教会	151名
・豊繁	4月23日	清水委員出向 分教会	50名
・櫻井	4月24日	村田委員出向 大教会	200名
・中背	4月24日	松村委員長出向 大教会	150名
		飯降信委員出向	

人事

《立教180年4月25日付》

【直属学生担当委員長辞令交付】

- ・坂口敏久（牛込・東泉）
- ・山中正崇（大江・養道）

業務記録

《立教180年4月16日～5月15日》

- 4月17日 春の学生おちばがえり  
プロジェクトチーム会議
- 19日 まなびば研究室会議
- 20日 事務局連絡会
- 22日 『Happist』納品
- 24日 『Happist』発送
- 25日 勉強会チーム会議
- 委員会
- 例会
- 広報室会議
- 学生連絡会
- まなびば研修会
- スタッフ直前研修会

26日 まなびば研修会（～27日）

5月3日 第54期天理教学生会委員総会（～5日）

- 12日 学生連絡会
- 14日 学修部部会
- 15日 学修高校の部研究室会議
- 人材育成部部会
- ビデオチーム会議



http://tsa.tenrikyo.or.jp

学生担当者報 Vol.364

発行/天理教学生担当委員会 発行責任者/松村孝吉 編集責任者/福江弘一  
[TEL]0743-63-1511 (内線5817) (直通)0743-63-2489 [FAX]0743-62-5780  
[E-Mail] tsa@tenrikyo.or.jp [TSA website] http://tsa.tenrikyo.or.jp

立教180年 平成29年5月25日発行

彼ら、彼女らの心に『信仰の種』を蒔こう



爽やかな風と柔らかい陽射しに包まれた初夏のおちばにも、じわ

じわと夏の足音が近づいてきた。そんな足音と共にふと浮かんでくるのは、やはり『こどもおちばがえり』。子供たちの笑顔が溢れ、元気な笑い声がこだまするあの賑やかな光景は、思い出すだけで童心にかえり、今でも胸がワクワクしてくる。そして、『おちばがえり』が終わると、休む間もなく『学生生徒修養会 高校の部』

がやってくる。今やおちばの夏の風物詩となったこの二大行事は、夏のおちばを、賑やかに明るくしてくれる。「きつと教祖も、おちばの夏をとても楽しみにお待ち下されているんだろなあ」そんな思いにふけながら、東の楼門をくぐり、ご本部の中庭に入ると、ふと目の前を小さな子供達が無邪気に戯れながら横切った。「ちよっと待ってー！」その後をニコニコ楽しそうにお婆ちゃんが追いかけていく。その時の、かわいい孫を見

つめる祖母の優しい眼差しは、何とも言えない愛おしさ喜びに満ち溢れているようで、やっぱり孫は可愛くて仕方ないんだろなあと、その光景を見ながら思わず心が和み幸せな気持ちになった。

「教祖もきつとこのお婆ちゃんのように、かわいい子供である私達人間がおちばに帰ってくることをとても喜び下さっているに違いない。八月の学修でおちばに帰ってくる高校生たちには会えるのを、心から楽しみにお待ち下されているんだろなあ。もちろん若者が多ければ多い程、賑やかなら賑やかな程喜び下されるのだから、学生層の育成に携わらせていただく私たちは、まずはどこまでも『教祖にお喜びいただくんだ』との思いで、一人でも多くの高校生がおちばに帰ってくるように動員に励ませて頂かないといけないな。まるで青空の中にそびえ立つような美しい教祖殿を眺めながら、そんな気持ちで新たにさせていた。『もう道というは、小さい時から心寫さなきゃならん』(明治33・11・16)

学生生徒修養会部

柏原 信弘

とお教えいただくように、高校生という、まだまだ頭が柔軟で素直に受け入れてくれやすい年代の内に、しっかりと信仰の喜びという『種』を仕込んでおくことは大切である。その中で、「まいたる種はみな生える」(七下り目)とお聞かせいただくように、その仕込んだ種の上に丹精を続けると、やがて旬が訪れ、芽生え、この道に繋がる御守護の姿に繋がるのだと教えていただく。正に学修は、彼ら彼女らの心に『信仰の種』を蒔く絶好の機会である。一人でも多くの若者がこの道に繋がる尊い理を頂戴するためにも、学修に向けて精一杯に声かけ・働きかけに努めさせていただきたい。しかし何よりも、どこまでも「教祖にお喜びいただきたい！」との思いを持って動員にあたることこそが、この道の動員の基本であることも忘れないでおきたい。

立教180年 学生担当委員会 活動方針 『誠の心で人材の育成につとめよう』

# 「学生生徒修養会 高校の部」の体制変更について

## ■はじめに

本年一月例会にて発表いたしましたとおり、「学生生徒修養会 高校の部」について、これまで受講生に対して、同じ受講回数で同学年の組を編成し、運営していたプログラムを、本年からは受講回数に関わらず学年別にすることにいたします。

これからの道の将来を担う人材を育成する必要性が強く求められている今、この度の「学修高校の部」における変更は、これまでの現状と今後を見つめて、既存のプログラムや運営体制を続けるのではなく、「対象者が受講しやすい学修」、「対象者に声をかけやすい学修」となることを目指しての体制の変更であります。

## ■なぜ、既存のプログラムや運営体制を変更する必要があるのか？

近年の高校生の様子を見ていると、人と人の関わりが苦手で、新しい出会いの場へ赴くことに不安を感じる学生が増えているように感じます。これは学修においても同様であります。学生会などの行事が楽しくて仕方がないと話す学生であっても、行事開催の前日は嫌でしょうがなくなり、どうにかして欠席しようと思うのだ

そうです。なぜかと聞くと、「参加しても馴染めないのではないか、他の参加者に受け入れてもらえないのではないか」と考えてしまい、不安に陥るのだそうです。新しい出会いを求めているのですが、知っている人が居る安心の下で、参加を望んでいる思いが強いです。つまりは、周りからどう見られているのかが気になり、自らに自信が持てない若者が増えているのだと思います。

学校では作ることができない自らの居場所や友達を求めて学修に参加し、心の安らぎを得ている高校生が増えている傾向があり、学生層のおたすけの場としての学修が益々求められています。このような高校生たちの抱える不安をできるだけ取り除いて、学修に一人でも多く参加してもらいたいと考え、そのためにはこれまでに出会った友達と離れることなく参加でき、そして、期間中にできるだけ新しい友達とたくさん出会い、仲間との思いを共有できる環境にしていくことが望ましいと思いい、これまでの体制から変更することにいたしました。

## ■「対象者が受講しやすい学修」とは？

これまでは一年生も二年生も三年生も初めて

受講する高校生は一回生として寮で生活をし、受講回数別に分けた校舎で授業、レクチャーを受けてきました。これを今年からは一回目で受けても二回目であっても二年生ならば二年生の寮と一緒に生活して、二年生の校舎に行くこととなります。回生別という段階を踏む良さはなくなりますが、現体制では、同じプログラムで受講する学生の数が上級生になるほど少なくなっている現状があります。

会長子弟の中で、親里管内の学校へ通う高校生と学修に参加した高校生を足しても、全学生会長子弟数の半分にも届かず、それだけ多くの教会長子弟たちが高校在学中に、おちばで学んだ経験がないことが分かりました。教会で育った子弟を始め、ひとりでも多くの学生が、を、の息を掛けていただきながら、おちばで過ごす喜びを味わってほしいと思います。

## ■「対象者に声をかけやすい学修」とは？

そして、「対象者に声をかけやすい学修」については、これまでの回生別の体制ですと、一年生に続いて二年生でも受講しようという高校生が、まだ受講したことがない同級生を誘う場合、その友達とは一緒の寮には入れません。せっかく誘ったのに、一回目の寮、二回目の寮と別々になってしまうことは、一回目の子にとつては不安になってしまい、受講することに二の

## 学生担当者報

足を踏んでしまうケースがありました。これを学年別にすると、受講回数は違うけれども、一緒に行けるんだという安心感が生まれ、そのことが力の入った動員活動につながるのではないかと思います。そして、一年生の時に参加できたが、二年生では参加できなかった子たちが、三年生で再び参加しようと思っても、二年生の時に行けなかったことでハードルが非常に上がっていました。そのハードルを下げ、高校最後の学修に是非参加してもらいたい願いもあります。三年生でもう一度昔の友達と共に時間を過ごすという良さを出していきたいと思いました。

## ■今後検討すべき各学年の要点

現在、受講生の学年齢に応じたプログラム内容、運営体制を検討しています。少年会員を終えて間もない一年生、別席を運べる二年生、高校卒業に向けた心づくりが大切な三年生への働きかけが今後各学年の要点にもなっています。

## ■「これまでの学修」変更の歴史

学修の前身は、昭和十二年一れつ会の主催で開催された「おちば夏期修養会」にあります。当時、日頃教祖のお膝元で学ぶことのできない教内子弟に対する道の仕込みが、教内の課題の一つにありました。そこで、一れつ会総裁であった二代真柱様を中心に取り組まれたのが、

親里管外学生を対象とした「おちば夏期修養会」でした。以降、戦時中にあっても開催を続けられました。戦況悪化と共に一時中断されることとなりました。終戦後の昭和二十三年に一れつ会扶育生を対象に修養会は復興され、その良い結果を教内に広く及ぼすべくとして、昭和二十五年からは一れつ会生以外の参加も認められるようになりました。「おちば夏期修養会」の開催以降、行事名や対象者の変更を為されながら、縦の伝道の一環として教内の重要行事の一つとなっていました。

昭和三十九年より行事名称を「学生生徒修養会」とし、国内布教伝道部講習課の運営によりスタートしました。これより学修は受講回数によって、おさづけの理拝戴者の中から、二回目修了者には修養科修了、三回目修了者には教会長資格検定講習修了の資格が与えられることとなりました。

ところが二千名を越える受講生が十五日間の合宿生活を行い、資格を与える学修であるため内容の過密さに、受講生が消化不良を起こしていることが懸念され、昭和四十九年より学生の自主性を尊重する、成人に合った内容へと改革がなされました。これ以降、受講回数による編成はそのままに、資格を与えることが見直される学修が始まります。そして、昭和五十三年に学生担当委員会が発足し、平成四年からは学

生担当委員会に運営が移管され、今日を迎えています。

学修は二代真柱様が道の後継者育成に取り組まれたことに産声を上げ、三代真柱様が学生一人ひとりの心の成人を望まれた改革の上に今があり、現真柱様より常々お導きを賜り、親心をお掛けいただいています。

## ■おわりに

学修高校の部が始まって半世紀を超えました。その間、時代とともに高校生の様子を見ながら、これまでも対象者、寮体制を見直し、またHARPの手法を用いたり、行事の工夫を凝らしながら現在に至っています。この度の変更がすべてにおいて良いかと問われますと、そうではない場合もあるかもしれません。しかし、この時期に、一人でも多くの高校生がおちばに帰り、一回でも多く学ぶ機会を作ることが必要だという思いから体制の変更が踏み切りました。メリット、デメリットはありますが、おちばで開催される育成行事、おちばの理を受けお育ていただける修養会に変わりはなく、より良い学修を作り上げるために努力し続けて参ります。何卒、この度の変更をご理解いただきまして、動員には変わらぬご協力を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

## 学生担当者報

## 立教180年 学生生徒修養会 高校の部

親里ちは人類のふるさと。ここでの合宿生活を通して、全国から帰り集う多くの友と語り合いたすけ合う。陽気ぐらしの教を学び、いろいろな行事の中で自らの心を見つめ、人をたすける心を育てる場所。きっとあなたの人生にとって、大きな意味を持つ1週間になるにちがいない。

### 募集要項

- ▽期 間 …… 平成29年 8月 9日(水)～8月15日(火)
- ▽受講対象 …… 高等学校に在学し、全期間受講できる者。  
(親里管内については天理高校第1部の自宅通学生に限り受講可能です)
- ▽募集人員 …… 1,400名 (男子 700名、女子 700名)
- ▽内 容 …… ☆レクチャー ☆ひのきしん ☆おてふり・鳴物練習  
☆レクリエーション ☆グループワーク ☆感話大会 ☆みんなのつどい など  
※期間中に別席を1席運べる日を設けます。
- ▽集 合 …… 8月 9日 午前9時30分～10時  
詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- ▽解 散 …… 8月15日 午前10時30分 (予定)
- ▽受講御供 …… 8,000円 詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。

### 申し込み

- ▽申込方法 …… 以下の書類をととのえ、最上級教会長の署名・捺印をいただいた後、学生担当委員会事務局に申し込んでください。  
・受講願書1通  
・返信用封筒1枚 (保護者氏名、住所、郵便番号を記入し、82円切手を貼付してください)
  - ▽申込期間 …… 平成29年 5月25日～7月25日まで  
(※事務処理の関係上、願書はなるべく7月18日までに提出してください)
- ※受講にあたっての詳細及び必要事項は、書面にて7月10日以降、随時保護者宛てに郵送いたします。また、7月10日以降はTSA websiteでも詳細、必要事項が確認できますのでご利用ください。  
※受講願書は学生担当委員会事務局、直属学生担当委員会、各教務支庁にあります。

### 第54期天理教学生会委員総会 開催報告

五月三日から五日にかけて、第二母屋、東右第一棟を会場に、第五十四期天理教学生会委員総会を開催し、学生百八十名(教区二十八団体六十九名、直属三十団体五十八名、スタッフ五十三名)が参加しました。初日は開会式、ウォーミングアップの後、学生生活の大切さや、魅力について話し合い、改めて学生生活の必要性を確認し合いました。次いで、春の学生おぢばがえりの式典でいただいた真柱様のお言葉を振り返り、今学生に何が求められているかについて意見を出し合い、それぞれが日々の生活の指針となるものを決めました。

二日目には、松村孝吉 学生担当委員会委員長より「教祖のひながた」について講話があり、教祖が身をもって先にご苦労の道歩んで下されたお陰で、現在お道を信仰させて頂けることの有難さに気付きました。その後、自分と教会との関わりを振り

返り、今後教会にどう寄り添って、繋がっていくべきなのかを考えました。午後からは十月一日に実施する「道の学生ひのきしんDAY」について、ひのきしんの意義を再度確認し、全国の道の学生がそれぞれの土地所で心一つに日々の感謝のひのきしんをつとめることを誓い合いました。その後、山下忠宏 学生会委員長より、今期の活動方針で主軸となるキーワード「思いやり」の学生会について、「自分の周りにいる人へ思いやりの心をかけ合いたすけ合っている、一人一人が日々の陽気ぐらしを實踐する学生会にしたい」と思いを語りました。

三日目には、凜とした雰囲気の中、活動方針についての質疑応答、議決が行われました。各教区・直属学生会から真つすぐな意見、質問が飛び交いました。山下委員長はこの中で、「日々を通る中で相手を思いやることを大切にしていきたい。そのお手本となるのが教祖のひながたである。教祖のように、人だけではなく物に対しても思いやりの心を持って日々を通りたい。学生

会から思いやりを溢れさせていき、親神様の望まれている陽気ぐらしに少しでも近づいていきたい」と今期の意気込みを述べ、活動方針は可決となりました。

一年ごとにリーダー層も変わり、毎年度新たなスタートを切る学生会であります。今後も学生たちの生き生きとした活動の場、そして共に育つ場として、この先も段々と積み重ねていきますよう今後ともご支援、ご丹精をお願いいたします。



# 第五十四期天理教学生会活動方針

## 仲間を思いやり、 日々の陽気ぐらしを実践しよう！

### 一、教理勉強をしよう

○おふでさき、みかぐらうたに親しもう

○教祖のひながたを学ぼう

### 一、思いやりの連鎖を起そう

○心を配ろう

○おつとめをしよう

仲間を思いやり、

日々の陽気ぐらしを実践しよう！

陽気ぐらしとは人間生活の目標であり、心を澄みきり互いにたすけ合うことを言います。陽気ぐらしをするには、日々心のほこりを払うことと、思いやりの心を持って仲間とたすけ合うことが大切です。私たち人間の心の使い方を振り返る基準となるものが親神様の思召であり、教祖の教えです。教祖を通して教えてくださった親神様の思召を学び、自分の心の使い方と照らし合わせて心のほこりを払いましょう。また、日々を通る中で、思いやりのある行動を実践する機会はたくさんあります。どんなことをしたら相手のためになるかを考え、仲間思いやりの心をかけていきましょう。困っていたり悩んでいる仲間も、ちろんのこと、周りにいる仲間と思いやりの心をかけ合いたすけ合って、日々の陽気ぐらしを共に実践していきましょう。

### 一、教理勉強をしよう

親神様が望まれている陽気ぐらし、世界に近づくために、みんなで教理勉強をしていきましょう。学生会活動をする上で大切にしなければいけません。

ればいけないのは天理教の教えであります。ですから、私たちが教理勉強をすることは欠かせないことです。教理勉強をすることで、お道の素晴らしさを感じ、仲間同士で伝え合っていくでしょう。そして、日々を通る中で教えを実践し、親神様、教祖に喜んでいただける心の使い方を心がけましょう。

### ○おふでさき、みかぐらうたに親しもう

「立教百八十年 春の学生おぢばがえり」式典で真柱様は「教理を身近に、しかも、間違いなく学ぶ取るためのものに原典があります」とお話くださいました。さらに、その中でもおふでさき、みかぐらうたは信仰年限の浅い人や若者や子供にも比較的親しみやすいとお話くださっています。今はまだ書かれています意味が分からなくても、ふとした時にどれか一首でも思い出すことができれば、それを手掛かりとして教えにのっとった考え方を学んでいくことができます。そのために教会に足を運んだり、活動の中で時間を設けたりして、率先しておふでさき、みかぐらうたに親しむ機会をつくりましょう。そして、親しむ中で感じたことや学んだことを仲間と

共有し、理解を深めていきましょう。

### ○教祖のひながたを学ぼう

私たちは親神様から身体をお借りし、心の自由を与えていただいています。親神様の思召にかなう心の使い方をするため、そのお手本となる教祖のひながたを学びましょう。そのために『稿本天理教教祖傳』や『天理教教祖伝逸話篇』を読んだり、道の先輩の話や話を聞いたりして教祖のひながたを学びましょう。そして教祖の教えを基準にして自分の心の使い方を振り返り、親神様、教祖に喜んでいただける心の使い方毎日を通れるようにしましょう。

### 一、思いやりの連鎖を起そう

日々の陽気ぐらしを実践していくために、仲間と思いやりの心を連鎖させていきましょう。そのために、思いやりの心を受けた人は、同じように誰かに思いをかけ、身の回りから思いやりの心を連鎖させていきましょう。身近に行える陽気ぐらしを身の回りから全国へ、そして世界へと広げ、親神様が望まれている陽気ぐらし世界に少しでも近づいていきましょう。

よう。

### ○心を配ろう

思いやりのある行動をするために、周りの人たちに心を配りましょう。心を配るには、些細な声かけや気配りなどが大切です。毎日を通る中で、相手の立場にたって物事を考え、自分にできる思いやりのある行動を心がけましょう。

### ○おつとめをしよう

教祖は世界たすけの手段として、私たちに、おつとめを教えてくださいました。おつとめで人は必ずたすかります。周りに困っている人や悩んでいる人がいたら、その人のたすかりを願っておつとめをさせていただきます。また、おつとめは心のほこりを払う手立てでもあります。朝夕のおつとめなど、日頃から教会に参拝に行き、生かされていることに感謝して、自分の心のほこりを払いましょう。

### まなびば研修会 開催報告

四月二十六日、二十七日の二日間、第二母屋と第十五母屋を会場にまなびば研修会を開催しました。昨年までは、〈屋外〉プログラムと〈屋内〉プログラムの二種類に対する研修会を開催していましたが、今年は単一プログラムでの研修となりました。参加者は、三十七教区に加え、海外部からの参加を含め、百十九名におよび、近年では例を見ない規模の研修会となりました。

平成二十九年度の本部より提示するまなびばプログラムでは、「陽気ぐらし」私にできること」というテーマのもとに、高校生一人ひとりが陽気ぐらしとは何かを考え、また陽気ぐらしへ向かって自分にできることを考えると同時に、日常生活での実践へつながるきっかけになるようにと思いを込めています。

研修会では、実際に高校生が受けるプロ

グラムを体験し、その上で各教区で開催するための進め方説明を行いました。

初日のグループタイム(以下GTと表記)①では、「OHANANAISSIX」を行いました。「OHANANAISSIX」は、すぐろくをモチーフにしており、マス目ごとのトクテーマに沿って、自己紹介ができるようになっていきます。ゲーム感覚で気軽に楽しく自己紹介を進め、お互いを知り合うきっかけを作らねらうとしています。

GT②「トレジャーハンター」では、まさしくお宝探しを行い、グループにとってのお宝を見つけるべく、数々の課題を協力して取り組みました。一人ひとりに向き不向き課題がある中でしたが、お互いに励まし合い、勇ませ合いながらお宝を目指しました。グループとしての仲間意識を高めるとともに、お互いに支え合い、たすけ合うことの大切さを学びました。

二日目のGT③「サポーター」は、自分の周囲や過去を振り返り、今まで、自分が

どれだけ多くの人に支えられてきたのか気付いてもらうことをねらいとして行いました。そして、その後の「おはなし」は、「陽気ぐらし」私にできること」を話のテーマに、GT③で気付いたことが、どのように陽気ぐらしにつながるのか知り、また陽気ぐらしの実践として自分にもできることがあるんだと感じるものとなりました。

GT④「ほめギフト」では、この二日間を振り返り、改めてグループ一人ひとりについて考え、良いところを探し、お互いにほめ合いました。意識をして、人をほめようとすることで、ほめることの難しさを知り、人をほめることの大切さを感じてもらおうとをねらいとしています。

閉講式でのあいさつにて、松村孝吉委員長は「学生に直接携わる私たち担当者が、行事などを通して、学生に信仰心を伝えていかなければならない」と、思いを語り、研修会は幕を閉じました。

### 「まなびば」開催会場一覧 《6月開催分》

教区	開催日時	場所	担当者	電話番号
三重	6月3日13時～4日15時	教務支庁	井上	
兵庫※1	6月3日13時～4日15時	教務支庁	五百倉	
奈良	6月3日13時30分～4日15時	敷島詰所	梅本	
埼玉	6月10日14時～11日15時	教務支庁	和泉	
愛知	6月10日8時45分～11日18時	愛知詰所	速水	
兵庫※2	6月10日13時～11日15時	有馬分教会	北中	
徳島	6月10日14時～11日14時	徳島市青少年交流プラザ	堀田	
宮崎	6月17日11時～18日15時	日州分教会	甲斐	

※1 神戸ブロック ※2 阪神ブロック

☆実施計画書は2ヵ月前までにご提出ください。

### 青空

「学生の頃に憧れた大人になれているのか？」事務局でのご用を終えるに際し、そんな疑問が浮かんだ。

学生時代は会活動が好きではなかった自分が学生会に足を運ぶ理由は、どんな事でも学生より楽しんで、どんな人にも優しい頼れる憧れの担当者がいたからであった。その人の事を少しでも知りたくて、少しでも近づきたくて、いつのまにか自分の生活は学生会が中心になっていた。

立場柄学生と関わる人が多いが、日々のご用や業務に追われる今の自分の姿は、周りの学生にはどのように映っているのだろうか。難しい顔をした接しにくい存在というところが妥当であろう。

事務局での勤務を通して親神様、教祖から大きな宿題を頂いたように思う。教内で「人材育成」という言葉を最近よく耳にする今日、大人と言うにはまだまだ未熟な身ではあるが、育成者としての自覚、責任、課題を改めて見つめ直す機会になった。

人材育成部局員 江口真邦

・ 繁藤	・ 越知	・ 玉島	・ 津軽	・ 高知	・ 網走	・ 大森町	・ 都	・ 本芝	【直属】	・ 奈良	・ 福岡	・ 東京	・ 高知
6月21日11時30分	6月20日11時30分	6月20日11時50分	6月20日12時30分	6月18日12時	6月12日11時30分	6月10日13時	6月7日12時45分	6月5日14時		6月29日11時	6月3日17時	6月3日15時	6月2日10時
大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会		教務支庁	教務支庁	教務支庁	教務支庁

**お知らせ**

**六月例会**

・ 期日 立教180年6月25日

・ 時間 15時半受付 16時開始

・ 場所 教庁4階講堂

**学生層育成者講習会**

**日程・会場案内**

【教区】

・ 宇仁	・ 神崎	・ 旭日	・ 明和	・ 中野	・ 池田	・ 西宮	・ 城法	・ 芦津	・ 兵神	・ 郡山	・ 網島	・ 鎮西	・ 北洋	・ 南	・ 東濃	・ 秦野	・ 岐美	・ 日野	・ 御津	・ 名京	・ 山陽	・ 西海
6月24日12時	6月24日12時	6月24日11時30分	6月23日12時	6月23日13時	6月23日12時	6月23日12時15分	6月23日12時15分	6月23日10時	6月23日10時30分	6月22日12時45分	6月22日12時30分	6月22日12時	6月22日15時	6月22日11時	6月22日11時45分	6月22日12時15分	6月22日10時	6月22日11時	6月22日11時50分	6月21日12時	6月21日17時	
大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	分教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会	大教会

**Happist7月号 予告**

【特集】 **ICE CREAM!!**

連載

- ・ 教理コーナー **お道の?を一緒に考えよう! 田邊 大治** (此花大教会長)
- ・ 輝く生き方見つけよう **Key Person 辻本 美博** (クラリネット・サクソフォン奏者)
- ・ 信仰エッセー **明日の地図ひろげて 脇 直子** (東明実分教会長夫人)
- ・ マンガ **ココロtravel ニシカワ ヨウコ**



辻本 美博



個人宅に直接「Happist」が届く個人購読も行ってあります。詳細は学生担当委員会事務局までお問い合わせください。

※内容は一部変更になる場合があります。

# 立教180年 こどもおぢばがえり 学生ひのきしん隊

陽光やわらかくふりそそぎ、こどもおぢばがえりの季節が近づいてきました。さて、本年も7月25日から8月5日まで、こどもおぢばがえり学生ひのきしん隊を結成します。学生ひのきしん隊では、全国各地からおぢばへ帰ってくる子どもたちの受け入れひのきしんをいたします。子どもたちに少しでも喜んでもらえるように勤めますので、一人でも多くの学生に呼びかけをしていただきますよう、よろしくお願いいたします。

《 募集要項 》

目的	ぢばへの伏せこみ
内容	わかぎおぢばひのきしんカウンセラー、廻廊ひのきしん受け入れなど
対象	高校生・大学生・短期大学生・大学院生・専門学校生
期間	A期間 7月25日(火)～7月31日(月) B期間 7月28日(金)～7月31日(月) C期間 7月30日(日)～8月5日(土)
受付時間	A・B・C期間とも13時
解散時間	A期間 11時 B期間 17時 C期間 13時
募集定員	A・C期間 70名 B期間 50名
参加費	A・B・C期間 1,000円 全期間 2,000円 ※いずれも当日お持ちください。
宿舎	旧大森町詰所
主催	天理教学生会
後援	天理教学生担当委員会

《 お知らせ 》

- 参加について  
申し込みなしの参加は認めません。また、原則として遅刻・早退は認めませんが、やむを得ず遅刻・早退される参加者は、事前に下記の問い合わせ先で相談の上、備考欄に書き込んでください。  
※高校生の参加につきましては、保護者の同意書なしでの参加は認めません。後日、同意書を発送いたしますので、当日お持ちください。
- 申し込みについて  
所定の申し込み用紙に必要事項を記入し、学生担当委員長の署名・捺印のうえ、学生担当委員会事務局までお持ちください。(郵送・FAX可) 申し込み用紙が足りない場合はコピーしてお使いください。
- 締切について  
申し込み締切は7月6日(木) (FAX可) とします。  
申込書をFAXで提出される場合は、FAX送信後に学生担当委員会事務局までご連絡ください。また、FAXで提出される場合は、申込書の原本を郵送もしくは当日お持ちください。  
※詳細につきましては7月11日以降に書類を発送いたします。